

「非活動性侵害受容器」は正常時では機械刺激に対して反応性を示さず、病態時にはじめて反応性を持つ受容器であり、痛みの末梢神経機構を解明する上で重要である。しかし、骨格筋支配神経においてその存在は実証されていない。本研究では、*in vivo* 単一細径神経記録法によりC線維を記録し、正常ラット骨格筋の「非活動性侵害受容器」の軸索特性と侵害刺激に対する反応、感作物質筋注による反応性獲得の有無を調べた。その結果、これまで報告のある皮膚等他組織とは異なり、機械非感受性受容器のなかで交感神経と推定される神経の割合が非常に高く、一方で「非活動性侵害受容器」と推測される神経は機械非感受性受容器 58本のうち7本であった。そのうちの1本において感作物質による機械感受性の出現が確認された。

機械非感受性受容器の特性

